



進路だより

～PTA総会資料用～

第4号
2010年5月15日(土)
並木高等学校進路指導部

1 平成21年度卒業生入試結果及び進路概況

今春の合格状況の延べ数は、次頁に掲載した資料の通りです。国公立大の現役合格者は53名となり下表のようになりました。東北大や東工大等の難関国立大にも合格者を出しました。自己実現のために最後までねばり強く頑張った成果だと思います。

<過去5年間の進路状況>

年度	国公立大	私立大	国公立短大	私立短大	専修学校等	浪人・他	卒業生	国公立現役合格者数
21	45	195	0	5	25	39	309	53
20	35	177	0	8	35	57	312	42
19	51	190	0	13	28	33	315	63
18	61	144	2	18	24	58	307	66
17	41	158	1	16	43	54	313	49

国公立大の内訳は推薦17名、前期31名、中期2名、後期3名です。その中で、理系の合格者は27名、文系26名で、文・理ほとんど変わりませんでした。私立大については合格者数が429名でした。内容的には慶応大1名、青山学院大3名、東京理大7名、明治大1名、立教大6名、中央大2名、法政大4名等、難関私大にも多くの合格者が出ています。センター方式での受験者も多く、合格者数も141名になっています。ただ、昨年度は、経済状況の悪化もあって受験生一人に対しての受験校数が減り、安全志向が強まったように感じます。

自己実現のためのポイントは「早期に目標を決め、志を強くもつこと」そして「日々は決戦」と言う思いで最大限の努力を続けることです。学問に王道はありません。在校生諸君にも大いに期待します。

2 2010入試、そして2011年入試へ(資料旺文社)

○国公立大志願者数3%増。

2010年国公立大学一般入試の志願者数は全体で14,260人(3.0%)増加しました。国公立別では、国立大2.0%、公立大6.0%、それぞれ増加しました。公立大の志願者数の増加が大きく、増加率は国立大の3倍です。増加要因としては次のようなことが考えられます。

- ① 18歳人口の増加等による受験生数の増加
前年より0.9万人増
- ② 深刻な不況下での国公立大志向の強まりセンター試験の平均点の大幅ダウンにかかわらず国公立志願を貫徹した層が多い。
- ③ 就職難で資格系統学部の人気の高まり
就職内定率の低下から、資格の取得できる教員養成、家政、生活科学、体育、医療・看護系の志願者が増加
- ④ 地元出身者への学費等の優遇措置のある公立大が人気
不況から学費の割安な公立大への志願者が増加

全体の志願倍率(志願者数÷募集人数)は4.9倍で前年より0.1ポイントアップしました。日程別では、前期日程の志願倍率は3.3倍で前年より0.1ポイント、後期日程は10.1倍で0.3ポイント、公立大中期も13.7倍で0.5ポイント、それぞれ各日程ともアップしました。

地域的には、各地区とも前年を上回っています。全国平均を下回ったのは北海道、東北、関西でした。

○私立大学志願者1%増、センター試験利用入試7%増。

平成16年から受験者数の減少とともに志願者数が減少しましたが、19年からはそれにもかかわらず志願者数増となっています。2010年の志願者数増加の要因としては、第一には受験生数の増加があげられます。その他の要因としては、次のようなことが考えられます。

- ① センター試験利用大学・学部が増加、センター試験利用入試の多様化
- ② 主要大学の学部増設、改組
- ③ 全学部日程入試、学部統一入試の導入
- ④ 学外試験場の新增設
- ⑤ 受験料割引・減額制度、奨学生制度の導入

大学別の志願者の動きを見ると、センター試験の平均点がダウンしたことや不況による「記念受験」の減少などから、難関上位校などは敬遠され、バラツキはあるものの、準難関校の志願者増が目立ちました。首都圏では慶応大、早稲田大、東京理科大が減少し、上智大、明治大、立教大、法政大が増加しています。系統別では、家政、生活科学、医療・看護系の人気が目立ちました。

○2011年入試について

2011年の国公立大入試ではここ数年続いていた後期日程廃止の流れは小さくなり、逆に後期日程を新たに実施するなどの動きも出てきています。入試科目では、センター試験の地歴公民や理科の時間割が変更となる2012年入試の前年にあたるためか、センター試験の変更よりも個別試験(2次)の変更が多くなっています。これらの変更点については、多くの国公立大で発表していますので、早めに情報を得ることが必要になります。注意してください。

国立大では、平成20年から推薦に関する取り決めを見直し、推薦入学を「3割目安」から「推薦とAO入試を合わせて5割を超えない範囲」に緩和されました。また、公立大の推薦入学は定員の5割を超えないことが目安で、AO入試は別枠とされます。ここ何年間かで、推薦・AOの募集枠拡大の動きは落ち着き定着した感がありますが、推薦・AOについては、情報を敏感にチェックし、大学のスケジュールに合わせた早めの準備が必要になります。

3 進路指導重点目標

並木高校では進路希望の実現のための重点目標が設定されています。

- ① 個人面談を重視し、個々の生徒に応じた進路指導を行う
- ② 進学ガイダンスを充実させ、多様な情報の提供に努める
- ③ 職業観・勤労観を育成し、社会に役立つ生き方を考えさせる

このような目標を達成させるために、各学年では、それぞれの生徒のニーズに合わせて具体的な指導計画が作成されています。そして、生徒の実態を見て、学習指導と重ね合わせながら、自己実現のための対策が実践されていきます。進路指導部も各学年で設定される進路計画がスムーズに達成できるようあらゆる支援をしていこうと考えています。また、生徒の自己実現には、保護者の皆様のご協力が不可欠です。学年懇談会や学年委員会等で建設的な意見を出し合って、積極的に関わってください。そのような協力態勢の中でこそ、生徒個人の能力が最大限に発揮でき目標達成に繋がるのだと思います。ご協力よろしくお願いたします。